

原 著

皮膚通電抵抗と良導絡 (六)

京大生理 中 谷 義 雄

序 言

第一編 皮膚通電抵抗就中其の基本的研究

第一章 緒 言

第二章 測定器

第一項 実験用皮膚通電測定器

第二項 臨床用皮膚通電測定器

(1) 良導点電流量測定装置

(2) 良導絡探索装置

(3) 良導点探索装置

第三章 メチレン青皮膚電流輸送法に関する研究

第四章 自律神経剤注射の皮膚通電抵抗に及ぼす影響

第五章 皮膚通電抵抗と圧痛及び電流痛に関する研究

第六章 施灸後十分時皮膚の諸点に於ける通電抵抗の変化

第七章 電圧の変化による皮膚通電電流量の変化

第八章 置鍼による皮膚通電抵抗の変化

第九章 不感蒸泄と皮膚通電抵抗

第十章 総括と結論

第二編 良導絡に関する研究

第一章 緒 言

第二章 良導絡の形態に関する研究

其の一 良導絡の形態

其の二 腰部、手掌及び顔面の通電抵抗の一例

其の三 三叉神経痛の分析

其の四 背部の通電抵抗

其の五 良導絡に於けるプロカイン注射の影響

其の六 打撲による良導絡の変動

第三章 良導絡と内臓との關係

第四章 代表良導点に関する研究

第五章 皮膚通電、通過電流量の比較に関する研究

第六章 日常生活が良導絡に及ぼす影響

第七章 同一良導絡上の各良導点刺激がその各々の良導点に及ぼす影響

第八章 同一良導絡上の諸良導点に対する刺激が他の良導絡に及ぼす影響

第九章 五伝導方向に関する研究

第十章 五伝導方向と興奮線抑制線に関する研究

第十一章 六部定位の通電抵抗に関する研究

第十二章 左右良導絡の相關關係

第十三章 表裏良導絡の相關關係

第十四章 良導絡の興奮点及び抑制点の研究

第十五章 刺激の種類及び量とその良導絡への影響に関する研究

第十六章 全良導絡調整とその分析に関する研究

第十七章 反応良導点に関する研究

第十八章 総括及び結論

参 考 文 献

第十一章 六部定位の通電抵抗に関する研究

第一項 緒言

漢方医学の診察法に四診法というのがある。それは望、聞、問、切、とよばれ、望とは近代医学の視診のことで、聞とは、患者の音声、咳嗽呼吸、吃逆、妄語、狂語、嘔気、腹中、雷鳴等を聴いて診察することである。問とは患者或は側人に疾患の様子を問う診察法である。切とは診者の手を以て患者に直接觸れて診察する方法で、之には脉診、腹診と切経の三方法がある。六部定位とは脉診を行う部位で、経絡治療には脉診は重要な診察である。素問では三部九候で脉診を行い、十四経絡發揮では人迎、氣口の脉、難経では三部九候（六部定位の脉とも謂う）此の方法は難経に於て始めて記載されたもので、その後の鍼灸家はこの方法によつて行つて来た。左右の手に3本づつ診者の指をあて、左右6ヶ所で浮、中、沈の三脉を診る方法である。

六部定位の6部位は左右のH₁₃H₁₄H₁₅に相当している。脉状は浮、洪、沈、牢、弦、虚、軟、実、微、弱、伏、細、澹、数、緊、滑、促、遲、緩、動、短、長、代、結、散に分けられて居り、近代医学の教へる脈膊の性状よりも詳なりと云ひ得る。

左H₁₃は左寸口と謂はれ、心臓、小腸の虚実をみる。

左H₁₄は左關上と謂はれ、肝臓、胆嚢の虚実をみる。

左H₁₅は左尺中と謂はれ、腎臓、膀胱の虚実をみる。

右H₁₃は右寸口と謂はれ、肺臓、大腸の虚実をみる。

右H₁₄は右關上と謂はれ、脾臓、胃の虚実をみる。

右H₁₅は右尺中と謂はれ、心包（血管）三焦（淋巴管）の虚実をみる処とされている。左寸口をA、左關上をB、左尺中をC、右寸口をD、右關上をE、右尺中をFとした。そのA、B、C、D、E、F、で通電抵抗を測定した理由は、機骨動脈の非常に間隔の小さい所で五臓六腑の虚実を知ることが実際に出来るとすれば、それは、その部分だけの脉の感じが変化しなければならぬ。脉数が変わるとは考えられないのでその他

の性状が変化するとすれば、脉の緊張度やその他の性状であると考えられる。これは自律神経の血管運動神経に最も密接な関係があると思はれる。その変化は動脈のすぐ上にある皮膚の通電抵抗に關係する可能性が十分に考えられる。この様な推定のもとに、六部定位、A、B、C、D、E、F、点で通電抵抗を測定し、H₁（肺）、F₁（脾）、H₂（心）、F₂（腎）、H₃（心包）、H₄（肝）良導絡上の良導点を刺激して、どの良導絡と六部定位とが最も關係が深いかをしらべた。又100名の患者の症状と六部定位の通電抵抗との關係についてしらべた。

第二項 実験

(1) 実験資料

第一実験

実験例1、2、中〇義〇 32才 男性 健康體

実験例3、4、中〇千〇子 31才 女性 健康體

実験例5、6、中〇広〇 19才 女性 健康體

第二実験 患者100名

第三実験 患者100名

(2) 実験装置

第一実験 実験用測定装置

第二実験 良導点電流量測定装置

第三実験 良導点電流量測定装置

(3) 実験方法

第一実験 六部定位即ち左右のH₁₃、H₁₄、H₁₅に銀板を固定し、H₁₆、F₁₆、H₂₃、F₂₃、F₂₁に米粒大各一牡施灸刺激を與え、その都度、刺激直前と刺激直後の通電“A量”の差を求めた。そして、H₁₃を刺激した場合、六部定位のどの部位に6例の平均が最も影響しているかH₁₃を刺激した場合、最も關係に深いものを求めた。以下同じ。

第二実験 患者100名の左右H₁₃、H₁₄、H₁₅の通電抵抗を測定し、その6部位の内“A量”の特に多いもの2つを選び患者の主訴を記録した

第一實驗成績

第三実験 患者300名の内、男性56名、女性44名、男女に分け、各々通過電流量を測定し、合計平均した。

(4) 實驗成績



C	B	A	D	E	F
腎	肝	心	肺	脾	(222等)
膀胱	膽	小腸	大腸	胃	(222等)

第 59 表

符号	wt	wt	wt	wt	wt	wt
Al ₂ O ₃	A	B	C	D	E	F
SiO ₂	23	12	2	9	6	7
Fe ₂ O ₃	18	2	2	2	2	2
CaO	10	2	2	2	2	2
Na ₂ O	3	4	4	4	4	4
K ₂ O	3	4	4	4	4	4
SiO ₂	24	16	6	9	13	8
Fe ₂ O ₃	16	2	2	2	2	2
CaO	16	16	9	13	22	16
Na ₂ O	10	15	12	16	24	16
K ₂ O	15	16	16	16	27.5	16
SiO ₂	16	16	16	16	16	16
Fe ₂ O ₃	14	12	11	9	15	18
CaO	24	25	25	15	24	28

第 62 表

[illegible]

第 63 表

(915) 十牌制配定(一)23进数配定(优化)							
牌名	10	9	8	7	6	5	4
石 H ₁₆	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁₅	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁₄	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁₃	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁₂	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁₁	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁₀	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₉	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₈	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₇	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₆	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₅	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₄	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₃	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₂	2	1	19	15	17	26	61
石 H ₁	2	1	19	15	17	26	61

第 64 表

(96)		A	B	C	D	E	F
和 ₁ 中 ₁	20	17	6	11	18	42	61
和 ₂ 中 ₂	20	26	17	16	22	61	112
和 ₃ 中 ₃	24	26	14	14	20	55	95
和 ₄ 中 ₄	24	26	14	14	20	55	95
和 ₅ 中 ₅	42	26	16	16	22	60	115
和 ₆ 中 ₆	42	26	16	16	22	60	115
和 ₇ 中 ₇	42	26	16	16	22	60	115
和 ₈ 中 ₈	42	26	16	16	22	60	115
和 ₉ 中 ₉	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₀ 中 ₁₀	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₁ 中 ₁₁	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₂ 中 ₁₂	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₃ 中 ₁₃	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₄ 中 ₁₄	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₅ 中 ₁₅	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₆ 中 ₁₆	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₇ 中 ₁₇	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₈ 中 ₁₈	42	26	16	16	22	60	115
和 ₁₉ 中 ₁₉	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₀ 中 ₂₀	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₁ 中 ₂₁	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₂ 中 ₂₂	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₃ 中 ₂₃	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₄ 中 ₂₄	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₅ 中 ₂₅	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₆ 中 ₂₆	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₇ 中 ₂₇	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₈ 中 ₂₈	42	26	16	16	22	60	115
和 ₂₉ 中 ₂₉	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₀ 中 ₃₀	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₁ 中 ₃₁	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₂ 中 ₃₂	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₃ 中 ₃₃	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₄ 中 ₃₄	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₅ 中 ₃₅	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₆ 中 ₃₆	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₇ 中 ₃₇	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₈ 中 ₃₈	42	26	16	16	22	60	115
和 ₃₉ 中 ₃₉	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₀ 中 ₄₀	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₁ 中 ₄₁	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₂ 中 ₄₂	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₃ 中 ₄₃	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₄ 中 ₄₄	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₅ 中 ₄₅	42	26	16	16	22	60	115
和 ₄₆ 中 ₄₆	42	26	16	16	22	60	115

第 65 表

(例1)		A		B		C		D		E		F	
人数	性別	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
10	男	26	22	27	9	18	12						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10	男	22	20	23	12	17	11						
10	女	22	20	23	12	17	11						
10</													

第 60 表

(922)						
	A	B	C	D	E	F
基 H ₁	15	48	45	10	30	38
基 H ₂	16	50	50	60	30	38
基 F ₁	18	22	50	87	28	40
基 F ₂	15	15	51	72	28	40
基 H ₁ H ₂	18	49	56	83	22	42
基 F ₁ F ₂	15	44	56	73	22	40
基 F ₁ H ₁	18	49	61	82	28	45
基 F ₁ H ₂	22	58	71	101	112	49
基 F ₂ H ₁	22	58	71	101	112	49
基 F ₂ H ₂	24	56	72	97	97	48
基 F ₁ F ₂	24	56	72	97	97	48
基 H ₁	1	2	5	10	0	6
基 H ₂	(-3)	-10	(10)	-1	(-16)	-2
基 F ₁	(3)	-5	2	(-6)	(-8)	(-2)
基 F ₂	2	1	(5)	2	-2	-1
基 H ₁ H ₂	0	0	-1	-2	-4	0
基 F ₁ F ₂	(6)	(8)	0	-1	-5	-1

第 61 表

◆ 第二実験成績

◆症状を主とした場合。

頭重、D 5 例、A、E、各 3 例、B、C、F、各 1 例。
鼻部フルンケル、A、D 各 1 例。

眩暈、A 4 例、C 3 例、B、D、F、各 2 例。
嘔氣、F 6 例、A、B、C、D、E、各 2 例。

頸のこり、C 6 例、A、F、各 3 例、E、B、D、各 3 例
頭痛、A、B、C、D、各 5 例。

咽喉痛、F 9 例、E 4 例、D F 各 3 例。
A、B 各 2 例、C 1 例。

逆上、A、D、各1例。

口渴、A、D、各1例。
咽喉乾燥、D、C、E、F、各1例。

惡寒、C₂例、E、F、各1例。
鼻汁分泌增加、A、D各1例。

鼻開、E、F、各4例、A、B、C、D、各2例

6 例の影響

六部定位と 脈場所	心	肝	脾	肺	腎	心之
四象	A	B	C	D	E	F
(肺) H16	●●●●	●○○	●●●●	●●●●	●●●●	●○○○
(脾) F13	○○	●○	●○○	●○	●○○○	○
(心) H32	○○	●	○○	○○	●●	●
(腎) F311		●	●○○	○	○	●
(心之) H22	●	○	○		○○	●●●
(肝) F21	●○○○	●○○○	●○○	○		○

●印は最も強く影響した

○印は二番目に強く影響したもの

第 66 表

咳嗽、E 5例、F 4例、A、B、C、D、各3例。

痰、D 5例、A 4例、F 3例、B、E、各2例、C 1例。

胸苦、E 2例、B、F 各1例。

胸痛、F 8例、B 5例、C 4例、A、D、E、各1例。

胃痛、F 5例、E 4例、A、B、D、各2例、C 1例。

肋間痛、A、D、各1例。

胃部膨満感、F 3例、C 2例、B、D、E、各1例。

腹満、E、F、各1例。

胃部膨脹感、E 3例、A 2例、B、C、D、F、各1例。

熱、 $37.3^{\circ} \sim 37.5^{\circ}$ 、A、D、各7例、B、F、各6例、C 5例、E 2例。

食欲不進、D 7例、F 6例、A 5例、B、C、E、各2例。

熱、以上、F 7例、C 5例、D、E、各4例、B 2例。

倦怠感、F 19例、D 14例、A、C、各9例、E 8例、B 5例。

腰痛、C、F、各2例、A、D、E、各1例。

下痢、B、F、各7例、D、E、各5例、C 3例、A 2例。

肋間痛、C 5例、F 4例、B、E、各1例。

中耳炎、C、F、各1例。

蕁麻疹、C、F、各2例。

背部痛、C 3例、B、F、各2例。

膀胱痛、C、F、各1例。

◆測定部位を主にした場合。

測定部位の μ A量の多いものに対して最もよく現はれた症状。

A、(熱 $37.2^{\circ} \sim 37.5^{\circ}$) 7例、(眩暈) 4例。

B、(下痢) 7例。

C、(頸のこり) 6例、(肋間痛) 5例、(背部痛) 3例。

D、(熱 $37.2^{\circ} \sim 37.5^{\circ}$) 7例、(食欲不進) 7例、(頭重) 5例、(痰

) 5例。

E、(咳嗽) 5例、(鼻閉) 4例、(胃部膨満感) 3例。

F、(倦怠感) 19例、(咽喉痛) 9例、(胸痛) 8例、(熱 37.3° 以上)

7例、(下痢) 7例、(嘔気) 6例、(胃痛) 5例、(鼻閉) 4例、(胃部膨満感) 3例。

第三実験成績

〔男性〕56名の μ A量平均値

A、69 μ A B、80 μ A C、89 μ A D、73 μ A

E、83 μ A F、92 μ A

〔女性〕44名の μ A量平均値

A、64 μ A B、91 μ A C、99 μ A D、73 μ A

E、92 μ A F、106 μ A

第三項 考 按

第一実験に就いて

例1ではH₁₅に米粒大施灸一壯を行うと、その直後では、B、Dで9 μ A、Cで8 μ A変化した。この場合、BとDは●印とし、6例の統計を行った。H₁₆の列でAの5には○印をつけず、Fの4に○をつけたのは、Aの縦の列ではF₁₁の8の変化、H₁₃の6の変化で他の刺激で強く反応しているの、H₁₆の5を強い変化とは認めなかつた。Fの縦の列ではF₁₁の7が最高の変化を示し、次は、H₁₂の4、H₁₀の4になるの、H₁₅の4を強い反応と認めた。 μ A量比較の問題を考えに入れて、統計した。この様な考えをいれないで統計しても良く似た結果を示した。この様にして統計された結果からみると、H₁₅を刺激すると、A、B、C、D、E、Fの内、Dに最も多く反応を現はしている。H₁₅は肺良導絡であり、Dは古典で肺の虚実をみる脈診部位である。F₁₃を刺激すると、Eが最も多く反応している。F₁₃は脾良導絡であり、Eは古典で脾の虚実をみる脈診部位である。H₁₃の刺激は古典とは異り、脾の虚実をみるEに最も多く反応している。古典ではH₁₃（心）良導絡にあたる心経は君主であり、刺激はその臣である心包経を用いるとある。第九章、五伝導方向に関する研究の成績をみると、F₁₂、F₁₃を刺激すると、H₁₂、H₁₃より、H₁₃、H₁₄の方に強く作用し、H₁₂、H₁₃より、H₁₃、H₁₄の方に強く作用している、これは古典の考

えに相似である。 H_{10} , H_{11} は測定に適し、 H_{12} , H_{13} は刺激に適すると考えられる。 H_{14} を刺激するとCが最も多く反応を示している。 H_{15} を刺激するとFが最も多く反応を示している。 H_{16} を刺激するとA、Bが最も多く反応を示している。以上で大体、古典に謂う脈診部位と、刺激部位の属する良導絡に最も関係深い臓器名とが一致することが多いことがわかる。随つて以上の成績よりみる時は、脈診部位と臓器との関係は荒唐無稽とは謂えない所がある。それに加えて、Aは心、Bは肝、Cは腎、Dは肺、Eは脾と假定して、肝、心、脾、肺、腎、肝の左まわりの五グループに分けて、以上の成績を、例1では右から心には μA 肝には $9\mu A$ 、腎には $8\mu A$ 、肺には $9\mu A$ 、脾には $2\mu A$ と謂う様に記入して行き、各例で、その伝わり方の強い方向のみを示すと、五伝導方向と相似形が得られた。この様に色々の面に五伝導方向が現はれることは、身体に五伝導方向の一つの法則性があることが窺へるのであるまいかと考察される。

第二実験に就いて。

◆症状を主とした場合、

頭重ではDが最も多く現はれている。Dは肺(H_{11})、大腸(H_{12})、良導絡に關係深い所と解される。 H_{10} 、良導絡は頤頤に行つてゐるので頭重に關係があると考へうる。

鼻部フルンケルではA、D各1例であるが、Aは H_{10} 、 H_{11} 、良導絡で H_{11} は鼻に行つており、Dの H_{10} も鼻に行つてゐる。

眩暈、Aは H_{10} 、 H_{11} で H_{10} は心臓に關係深い。心臓と眩暈とは又關係が深い。

頸のこり。Cは H_{13} 、 F_{14} で F_{14} は肩から頸に行つてゐる。この様に考察すると大体説明がつく。これは単なる考察であつて、勿論この關係を積極的に證明するものとしては別になが、斯く考へることの妥当性を想ふものである。

◆測定部位を主にした場合。

A部位の μA 量の多い時に最も多く現はれた症状は微熱と眩暈である。

B部位の μA 量の多い時に最も多く現はれた症状は下痢である。この様に六部定位の通過電流量と症状とが密接なる關係を有するならば診断的に利用することが出来る。

第三実験に就いて。

男女ともに、通電々流量はA、D、B、E、C、F、の順に多くなつてゐる。男性ではAが $6\mu A$ でありFが $9\mu A$ 、女性ではAは $6\mu A$ 、Fは $10\mu A$ で男性よりその開きが大きい結果が出てゐる。左右で比較すると、男女とも左の方が通電抵抗は高いと謂うことになる。このことは手足で比較しても足より手の方が通電抵抗が低く、手のうち、拇指、示指に關し深い。 H_{11} , H_{12} が最も通電抵抗が低いと謂う様なことを考へあわせると、右ききの人が多いので、右手の通電抵抗が左に比較して低いのではないかと考へられる。

第四項 結 語

古典では六部定位とよばれる部位で内臓の虛実を診るとしてゐるが、それぞれ内臓のと脈診部位とは皮膚通電量から推せられる興奮性の消長を指標として考察するに無關係とは考へ難い。但し斯る妥当性は数多くの事實の帰納によつて愈々その通用性が高まるべきもので、六部定位の通電抵抗と症状との關係性が今後も續いて研究されるならば、診断に利用出来る可能性があると解される。精密には代表良導点の通電抵抗と症状との關係を更に具体的にしらべる必要がある。

六部定位に於ける通電抵抗平均値では末梢程通電抵抗が高く、左右では左の方が通電抵抗が高い傾向がある。

第十二章 左右良導絡の相關關係

第一項 緒 言

代表良導点で通電電流量を測定すると、各々異なる μA 量を示すのが常である。24条の良導絡で最も密接なる關係ありと思はれるものは、同名の左右良導絡間の關係であると想像される節がある。随つて左右良導絡間の相關關係についてしらべる必要がある。この様にして次々と各々良導

第 67 表

左右、表裏、良導点の变化の型	
① 興奮的に作用する。	A型 255(興奮、刺激側)の方向に興奮する。 B型 255(興奮、反対側)の方向に興奮する。 C型 刺激側のみ興奮する。 D型 反対側のみ興奮する。 E型 同じ程度興奮する。
② 抑制的に作用する。	F型 255(抑制、刺激側)の方向に抑制される。 G型 255(抑制、反対側)の方向に抑制される。 H型 刺激側のみ抑制される。 I型 反対側のみ抑制される。 J型 同じ程度抑制される。
③ 興奮と抑制に作用する。	K型 刺激側を興奮し、反対側が抑制される。 L型 刺激側が抑制し、反対側が興奮される。

255: 刺激電圧 255V, 刺激時間 10秒, 刺激電流 10mA, 刺激電圧 255V

絡間の相關關係をしらべて行くならば全良導絡間に存在する相關關係を知ることが出来るわけである。この様な相關關係を求めるには左右のどちらかに刺激を与えて、その相關を想はれる他側に於ける反應をみる方法が最も適していると考えられる。刺激の強さ、方法及び之を受ける生体の生活条件等によつて、その反應が異なるであろうことは笹川の刺激對刺激効果に關する三原則の教へる問題であるから、斯かる刺激生理學的の検査には特に嚴格に之等の條件を考慮せねばならぬ。即ち刺激は皮内鍼(太さ一番鍼、長さ1cm)を皮内に皮膚表面と平行に刺入し置鍼する)及び半米粒大三壯施灸、 $\frac{1}{4}$ 注射針 $\frac{1}{2}$ cm刺入、アストレメデン(日本臓器製劑)の $\frac{1}{4}$ 皮内注射を行ひ、刺激を受ける生体の條件としては、左右良導絡の代表良導点の μ A量の多い側と少い側とを嚴に區別して取扱つた。通電 μ A量の多い側を興奮の強い側、その少い側を興奮の弱い側と名づける。以上の様に類別して刺激を与えた場合、その反應は次の12通りの型に分類される。左右どちらも興奮性が高まり(μ A量が増加)刺激側の方が興奮性の高まつた場合、A型と名づけた。以下同じ。

興奮性の高い側に刺激を与えてL型であれば完全なシソー現象であり、B型、D型、F型、H型では不完全シソー現象である。A型、C型、I型では反シソー現象である。シソー型とは自律神経の交感神経と副交感神経その両者がその神経緊張をシソーの様に拮抗的に示す現象を名づけたものである。K型では完全なシソー現象である。以上、A型、C型、G型、I型は不完全シソー現象である。型、F型、H型では反シソー現象である。以上の様な型が考えられる外に、刺激の種類にあまり關係せず、受ける

条件によつて一定の法則性のあることがわかつた。これは自然調整作用即ち生機の調整機能を示すものであると考えられる。

赤羽鈎は手指趾の末端で知熱感度を測定し、左右を調整せしめると、その患者の症状が消失、或は軽減することが多いと述べている。知熱感度とは線香に火をつけ、井穴をたき痛く熱い感じがしたとき合図をさせ、その回数で感度を現はしているものである。

第二項 実 験

(1) 実験資料

皮内鍼刺激実験、患者19名

灸刺激実験、患者12名

$\frac{1}{4}$ 注射針刺激実験、4名

アストレメデン刺激実験2名

(2) 実験装置

良導点電流量測定装置

(3) 実験方法

患者の代表良導点20ヶ所で通電抵抗を測定し、皮内鍼、灸、 $\frac{1}{4}$ 注射針、アストレメデン刺激を与え、20分後、再度、同一部位(代表良導点20ヶ所で通電抵抗を測定した)。

(4) 実験成績

③ テーラ 施要刺激による反応 (半長3大3小)

測定部位	H3	H4	F3	F4	H3	H4	F3	F4	F3	F5
1 H3, F3	55	35	85	65	50	40	35	75	80	80
2 H3, F4	50	45	72	45	70	48	48	75	70	85
3 H3, F5	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
4 H4, F3	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
5 H4, F4	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
6 H4, F5	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
7 H3, F3	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
8 H3, F4	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
9 H3, F5	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
10 H4, F3	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
11 H4, F4	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
12 H4, F5	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
13 H3, F3	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
14 H3, F4	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65
15 H3, F5	50	52	55	45	40	30	38	75	70	65

第 70 表

④ テーラ 施要刺激による反応 (半長3大3小)

測定部位	H3	H4	F3	F4	H3	H4	F3	F4	F3	F5
1 H3, F3	28	22	35	50	35	28	25	55	70	70
2 H3, F4	35	25	45	45	35	40	40	45	75	75
3 H3, F5	24	22	15	7	18	5	20	20	7	5
4 H4, F3	38	32	39	38	15	22	30	15	35	30
5 H4, F4	40	38	15	20	40	35	35	70	55	18
6 H4, F5	30	30	20	25	35	30	30	45	30	15
7 H3, F3	52	55	50	45	38	45	60	60	60	60
8 H3, F4	40	60	30	40	35	38	50	50	40	35
9 H3, F5	36	36	50	35	55	50	60	55	45	35
10 H4, F3	40	40	20	25	40	35	35	70	55	18
11 H4, F4	30	40	20	25	40	35	35	70	55	18
12 H4, F5	30	40	20	25	40	35	35	70	55	18
13 H3, F3	52	55	50	45	38	45	60	60	60	60
14 H3, F4	40	60	30	40	35	38	50	50	40	35
15 H3, F5	36	36	50	35	55	50	60	55	45	35

第 71 表

	H3	H4	F3	F4	H3	H4	F3	F4	F3	F5
1 H3, F3	28	22	35	50	35	28	25	55	70	70
2 H3, F4	35	25	45	45	35	40	40	45	75	75
3 H3, F5	24	22	15	7	18	5	20	20	7	5
4 H4, F3	38	32	39	38	15	22	30	15	35	30
5 H4, F4	40	38	15	20	40	35	35	70	55	18
6 H4, F5	30	30	20	25	35	30	30	45	30	15
7 H3, F3	52	55	50	45	38	45	60	60	60	60
8 H3, F4	40	60	30	40	35	38	50	50	40	35
9 H3, F5	36	36	50	35	55	50	60	55	45	35
10 H4, F3	40	40	20	25	40	35	35	70	55	18
11 H4, F4	30	40	20	25	40	35	35	70	55	18
12 H4, F5	30	40	20	25	40	35	35	70	55	18
13 H3, F3	52	55	50	45	38	45	60	60	60	60
14 H3, F4	40	60	30	40	35	38	50	50	40	35
15 H3, F5	36	36	50	35	55	50	60	55	45	35

第 68 表

② テーラ 皮内刺激による反応

測定部位	H3	H4	F3	F4	H3	H4	F3	F4	F3	F5
1 H3, F3	45	55	52	32	72	82	35	27	72	75
2 H3, F4	50	50	50	35	35	75	82	82	25	47
3 H3, F5	80	18	10	8	15	20	40	36	25	10
4 H4, F3	25	18	7	7	10	12	22	25	12	10
5 H4, F4	15	15	25	40	28	12	20	20	25	18
6 H4, F5	15	15	20	18	15	10	15	25	25	12
7 H3, F3	35	45	35	35	40	45	35	58	57	54
8 H3, F4	32	32	32	28	50	55	40	42	25	28
9 H3, F5	40	40	30	35	25	30	35	30	42	52
10 H4, F3	55	50	32	40	42	62	50	45	72	40
11 H4, F4	40	40	40	42	32	32	50	50	30	35
12 H4, F5	55	45	55	55	55	55	70	55	50	40
13 H3, F3	20	25	45	45	15	12	20	20	15	22
14 H3, F4	50	55	40	35	15	22	25	35	40	40
15 H3, F5	25	25	28	25	20	12	12	30	28	25

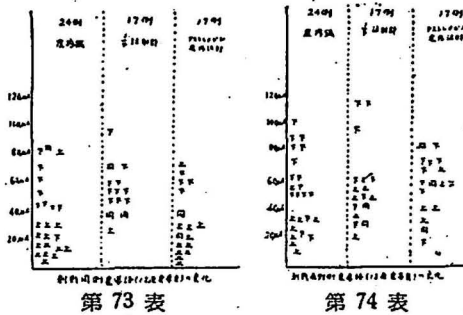
第 69

以上の①、②、③、④データより

左右良導絡の関係で、皮内鍼、灸、 $\frac{1}{4}$ 注射針、アストレメチン刺激を興奮性の高い側と与えた場合と、低い側と与えた場合の反応の型とその例数

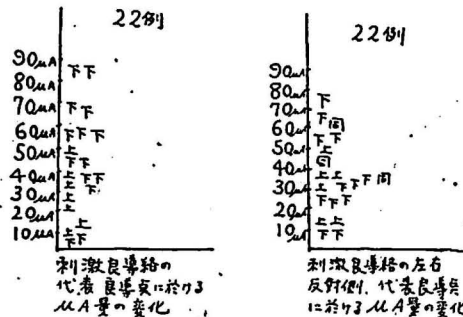
左右良導絡の関係			
皮内鍼			
興奮性の低い側		興奮性の高い側	
G型	34例		
K型	13例		
A型	10例		
L型	4例		
J型	4例		
L, F, D型各1例			
灸・半米粒大3壯			
A型	4例	F型	4例
K型	3例	J型	2例
G型	3例	H型	1例
C型	2例	C型	1例
I型	1例	L型	1例
$\frac{1}{4}$ 注射針			
F型	1例	F型	6例
		L型	5例
		B型	2例
		D型	2例
		J型	1例
アストレメチン皮内注射			
K型	3例		
A型	3例		
G型	3例		
E型	1例		
F型	1例		
J型	1例		
L型	1例		

第72表



第73表

第74表



第75表

第76表

灸・半米粒大3壯刺激
灸の反応は③④データより

第三項 考 按

①、②、③、④データより、左右良導絡の関係を刺激の種類別に分ける条件としては左右良導絡の興奮性の高まつている側に刺激を与えた場合と興奮性の低い側に刺激を与えた場合とに分けて成績を整理した

第四項 結 語

①データ例1は皮内鍼刺激であり、 $\frac{1}{4}$ 良導絡の興奮性は、左 $55\mu A$ では $75\mu A$ 、右 $55\mu A$ では $85\mu A$ である。この場合、 μA 量の少ない左の良導絡上に皮内鍼刺激を与えた。皮内鍼の実験では唯左と右の良導絡と謂うだけで位置を明示していない。大體の刺激部位は、手では肘関節と腕関節の中央であり、足では膝蓋関節と足関節の中央の良導絡上である。10分後には左 $55\mu A$ は $52\mu A$ となり、右 $55\mu A$ は $60\mu A$ となつた。この様な場合左 $55\mu A$ は $75\mu A$ が $52\mu A$ となり、右 $55\mu A$ は $85\mu A$ が $60\mu A$ となり $25\mu A$ 減少している。これは「どちらも抑制、反対側の方が強く抑制された。」であつてG型である。皮内鍼の刺激側が左右関係では右側より興奮性が低いから、不完全ながらシーソー現象を呈したわけである。興奮性の低い側に刺激を与えてK、A、C、G、I型を示せばシーソー現象を呈したと謂うことになる。左右良導絡の成績表の興奮性の低い側をみるとK、A、C、G、I型が多い。これはシーソー現象を呈することが多いと謂うことである。興奮性の高い側ではL、B、D、F、H型はシーソー現象を呈することになる。成績表の興奮性の高い側をみるとL、B、D、F、H型が多い。これはシーソー現象を呈することが多いと謂うことである。次の図の上、同、下、と謂うのは、皮内鍼では①②データより求めたもので、①データ、例1の $55\mu A$ の左に皮内鍼刺激を与えた場合 $75\mu A$ になつた。それで $75\mu A$ の横に下と記入した。これは刺激同側良導絡代表良導点の μA 量の変化である。左 $55\mu A$ に刺激を与えて左右良導絡の右 $55\mu A$ が $85\mu A$ になつた。刺激反対側良導絡の変化の $85\mu A$ の横に下と記入した。この様に皮内鍼、 $\frac{1}{4}$ 注射針、アストレメチン、灸等の変化をみると、刺激側も、反対側に於ても大體 $40\mu A$ を中心として、 $40\mu A$ より上は下降する場合が多く、 $40\mu A$ 以下の場合は上昇することが多いといつた相関が窺はれよう。

左右良導絡の興奮性の低い側に皮内鍼、灸、 $\frac{1}{4}$ 注射針、アストレメチン皮内注射刺激を与えると、その良導絡の代表良導点の興奮性が $40\mu A$ 以上であれば下降しながら、 $40\mu A$ 以下であれば上昇しながら、完全或は不完全シーソー現象前記を程する事が多い。左右良導絡の興奮性の高い側に灸、 $\frac{1}{4}$ 注射針刺激を与えると、その良導絡の代表良導点の興奮性が $40\mu A$ 以上であれば下降しながら、 $40\mu A$ 以下であれば上昇しながら、完全或は不完全シーソー現象を程する事が多い。③之は人体の神経性調整機能が左右の神経興奮性をあまり違はせぬ様に反射機転でシーソー現象的に行はれて居る証左だと考え度い。